

compass ~コンパス~



研究主題「自らの目標に向かって学びを進める」姿 を目指して

4月の全体研修会の中で、研究主題の「自らの目標に向かって学びを進める」姿とは、どんな姿なのかを、みなさんで出し合うことができました。研修会中の板書では、うまく整理することができなかったので、授業の流れに沿って整理したものをお伝えします。

	自ら目標に向かって学びを進める姿	教師の手立て
つかむ	「～できるようにになりたい」「分かりたい」という願いや問いをもつ。（「〇点取りたい！」もOK） 「分からない」「難しい」と素直に言える。 - 自分なりの考えをもち、その子なりのゴールを描いている。（自分の目標設定） 	「〇〇したい」を引き出すための①<u>導入を工夫</u>する。 - 個々の児童が「どこまで分かっているか」を的確に把握する。
考える・深める	- 一つの考えから別の考えへと発展させたり、自分の言葉で説明したりする。 - 自分に合った適切な「やり方・方法」を見つけ、自分から動き出す。 - 他者と交流する中で「聞いてみたい」「よりよくしたい」と考え、多様な方法に気づく。 	- 児童が自ら適切な方法を見つけられるよう支援する。 - 自分から動き出す姿や、他者との交流を促し（②<u>自分の考えをアウトプットする場の設定</u>）、見守る。
まとめる	- 学んだことを「アップデート」し、日常に生かそうとする。 - 学んだことを他の（違う）場面でも活用できないか想定する。 - 今回の学びを次の学びへと繋げようとする。 	学びがどのように深まり、日常や次の学習へどうつながっているかを見取る。（③<u>学び方の価値付けやふり返る場の設定</u>）

このように、研究の重点に関わる部分もたくさんあることが分かります。この目指す姿を原点に、これから研究を進めていきましょう。※「教師の手立て」の具体は裏面参照。

「教師の手立て」の具体の例

①導入の工夫 …昨年度の2学期の重点(タイムマネジメントに注意!)

- ・既習との違いに注目させ、課題設定をする。
- ・単元のゴールを意識させ、達成に向けて、本時では何をする必要があるのかを確認する。
- ・クイズ形式による問題提示をする。(スライドの活用)
- ・身近な生活場面と結び付けることで、興味関心を高める。
- ・具体物、半具体物を使って、問題の場면을捉えさせる。
- ・声の高低や声量、速さ、間の取り方、ジェスチャー、表情などを意識する

②自分の考えをアウトプットする場の設定 …1学期の重点

- ・自分の考えをもたせる。(※具体的な手立てについては、4月のミニ研修で共有済。4月13日の研究だより参照。)
- ・目的をはっきりさせて、ペア、グループ、フリーなどお互いの考えを交流することができる場面を取り入れる。
- ・話し方の型を示す。
- ・机間指導の際に、全体に広めたい考えをもっている児童を評価し、発言を促す。

③学び方の価値付けやふり返る場の設定 …1学期の重点

- ・課題を解決していく過程での児童の学びの姿を見取り、具体的に価値付けする。
例)「〇〇さんは、他の人の考えのいいところを見つけて、それを自分の考えにも生かしていたよ。」
「〇〇さんは、一人ではなく、他の人の考えも積極的に聴こうとしていたよ。」
「〇〇さんは、相手が納得できるまで、言い方を変えながら説明していたよ。」
「〇〇さんは、1つのやり方だけでなく、いくつかのやり方で試しながら、本当に合っているかどうかを確かめていたよ。」など
- ・ふり返りの視点を示し、本時の学びについて児童自身がふり返ることができるようにする。(挙手させてもよい。単元末には記述させたい。)
【1】分かった、考えた、気付いた、できるようになった
【2】学び方(どんなことに気を付けて学んだか、どんな学び方がよかったか)
【3】次に生かす(これからは…。次は…。)

自己決定の場の設定 …昨年度の1学期の重点

- ・様々な学習形態(個、ペア、グループ、フリー)を経験させ、それぞれの特徴を理解させた上で、ねらいの達成に向けて、自分に合うものを選ばせる。
- ・児童のつまずきを想定し、問題を解決するための支援を具体的に準備しておき、必要に応じて児童が選べるようにしておく。(ヒントカード、具体物、半具体物、資料、学習端末など。)
- ・難易度別の適用問題を準備しておき、児童が選べるようにしておく。
- ・児童に本時の自分の目標をもたせる。
- ・課題に対する自分の考えをもたせる。
- ・自分の学び方や今日の成果についてふり返らせ、次時への見通しをもたせる。